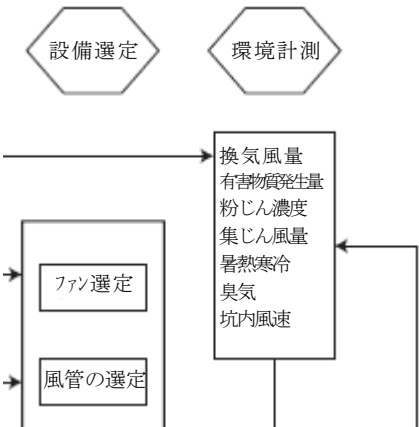
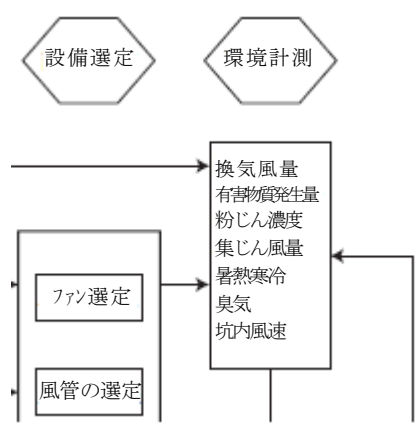
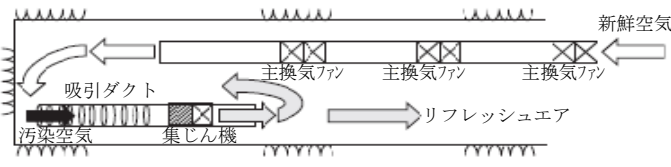

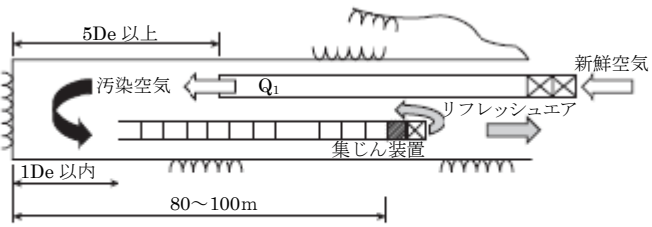
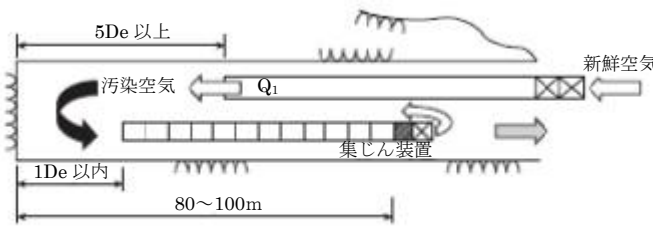
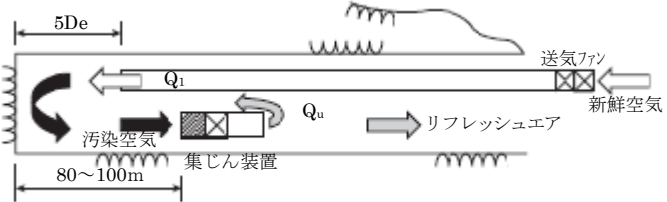
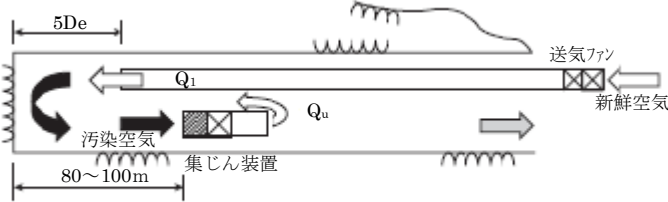
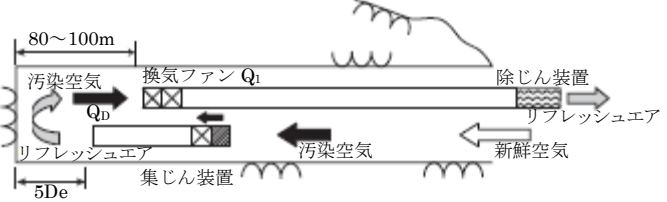
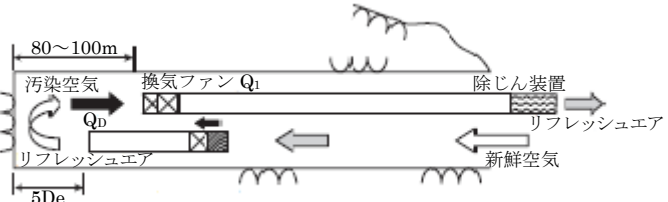


箇所	誤	正
15 頁 図 1. 1. 1 設備設定と環境計測の間	→の抜け 	→の挿入 
18 頁 表 1. 2. 1 有毒ガス等の性質、許容濃度等	二酸化窒素(NO ₂)-ACGIH 許容濃度 25	二酸化窒素(NO ₂)-ACGIH 許容濃度 3
66 頁、68 頁 表 2. 2. 1	空気の流れの矢印	別紙に差し替え
69 頁 特徴⑧の欄の 9 行目	・ ・ ため集じん機を設置する。	・ ・ ため集じん機又は局所換気ファンを設置する。
85 頁 図 2. 2. 10	 <p>図 2.2.10 長大トンネルの換気法の例 (送気・吸引捕集方式)</p>	 <p>図 2.2.10 長大トンネルの換気法の例 (送気・吸引捕集方式)</p>

箇所	誤	正
108 頁 10 行目の枠内 (2) ① の 4 行目から (H28.9.21 追加 修正)	$Q_{2b} = \frac{K \cdot S}{E \cdot t}$ ただし、 Q_{2b} : 所用換気量 (m^3/min) S : 1 発破による換気対象有害物質の発生量 (mg) E : 粉じんの管理目標濃度 ($3\text{mg}/\text{m}^3$)	$Q_{2b} = \frac{K \cdot S}{(E - E_0) \cdot t}$ ただし、 Q_{2b} : 所用換気量 (m^3/min) S : 1 発破による換気対象有害物質の発生量 (mg) E : 粉じんの管理目標濃度 ($3\text{mg}/\text{m}^3$) E_0 : 拡散希釈に用いる空気濃度 (mg/m^3) $\underline{\text{送気式 (外気) } 0.07\text{mg}/\text{m}^3}$ $\underline{\text{排気式 (坑内) } 0.3\text{mg}/\text{m}^3}$
128 頁 下から 2 行目	浄化することが一般的である。	浄化することが <u>望ましい</u> 。
128 頁 下から 1 行目	・ ・ は、送気・集じん方式が ・ ・	・ ・ は、送気・ <u>吸引捕集式</u> が ・ ・
137 頁 上から 9 行目	④ 冷房負荷 (h) $h = (H + H_w) \cdot 3600 \cdot \eta_3 \cdot \eta_4 \text{ (kW)} \cdots (2.3.25)$ 冷却水量 $h_w = \frac{H}{4.2 \cdot \Delta T_w \cdot 60} \text{ (l/min)} \cdots (2.3.26)$	④ 冷房負荷 (h) $h = \frac{H + H_w}{3600 \cdot \eta_3 \cdot \eta_4} \text{ (kW)} \cdots (2.3.25)$ 冷却水量 $h_w = \frac{h}{4.2 \cdot \Delta T_w \cdot 60} \text{ (l/min)} \cdots (2.3.26)$
142 頁 図 2.3.7	坑内風速の記述	別紙に差し替え
171 頁 上から 5 行目	・ ・ にした <u>二重構造</u> の伸縮 ・ ・	・ ・ にした伸縮 ・ ・

箇所	誤	正
171 頁 図 2.4.15	 <p data-bbox="376 391 898 418">図 2.4.15 送気・吸引捕集式（吸引捕集方式）の例</p>	 <p data-bbox="1101 391 1622 418">図 2.4.15 送気・吸引捕集式（吸引捕集方式）の例</p>
174 頁 下から 10 行目	<ul style="list-style-type: none"> ・・・（計数法による・・・） 	<ul style="list-style-type: none"> ・・・（<u>重量法</u>による・・・）
180 頁 上から 1 行目	<ul style="list-style-type: none"> ・・・程度に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・・・<u>以内</u>に設定する。
180 頁 上から 4 行目	<ul style="list-style-type: none"> ・・・と同様とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・・・と同様の<u>位置</u>とする。
180 頁 上から 10 行目	<ul style="list-style-type: none"> ・・・付帯設備（側方エアカーテン・・・） 	<ul style="list-style-type: none"> ・・・付帯設備（<u>間仕切りカーテン</u>・側方エアカーテン・・・）
180 頁 上から 11 行目 の次	11 行目の次行に追加	写真 2.4.2 にバルーン封じ込め装置を示す。 写真 2.4.2 をこの位置に移動する。
180 頁 上から 18 行目	写真 2.4.2 にバルーン封じ込め装置を示す。	削除

箇所	誤	正
181 頁 図 2.4.16	 <p data-bbox="386 356 927 384">図 2.4.16 送気・集じん式（希積封じ込め方式）の例</p>	 <p data-bbox="1105 356 1646 384">図 2.4.16 送気・集じん式（希積封じ込め方式）の例</p>
182 頁 図 2.4.17	 <p data-bbox="386 644 927 672">図 2.4.17 排気・集じん式（希積封じ込め方式）の例</p>	 <p data-bbox="1105 644 1646 672">図 2.4.17 排気・集じん式（希積封じ込め方式）の例</p>

箇所

194 頁
 図 2.4.25
 AP の位置

誤

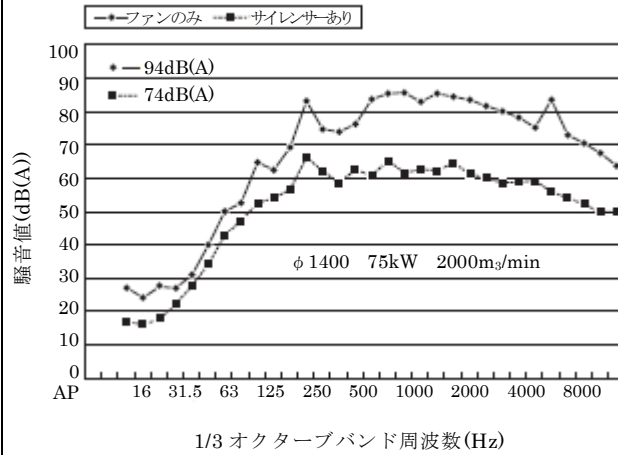


図 2.4.25 軸換気ファン用消音器の取付け前後の騒音周波数特性例

正

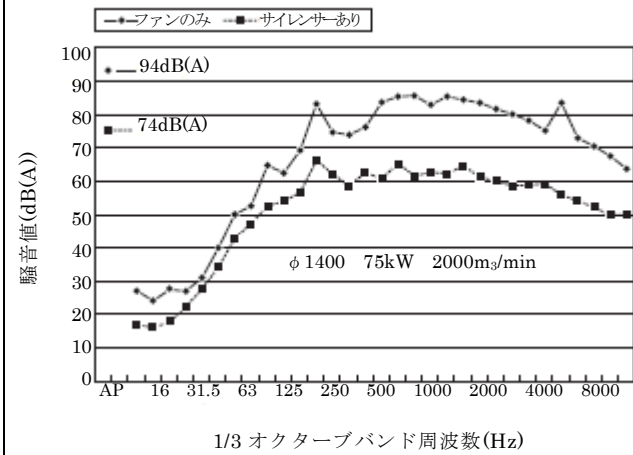
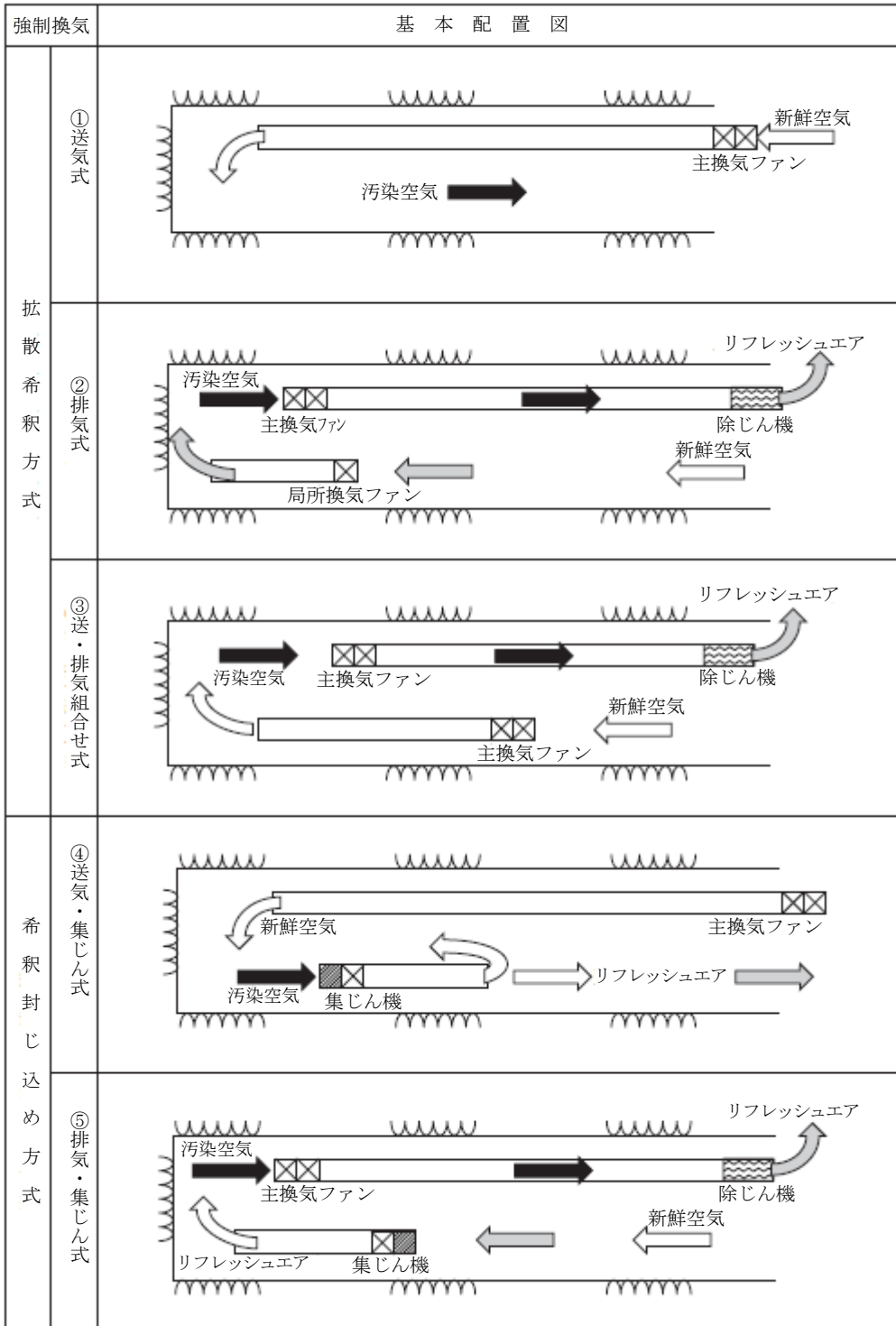
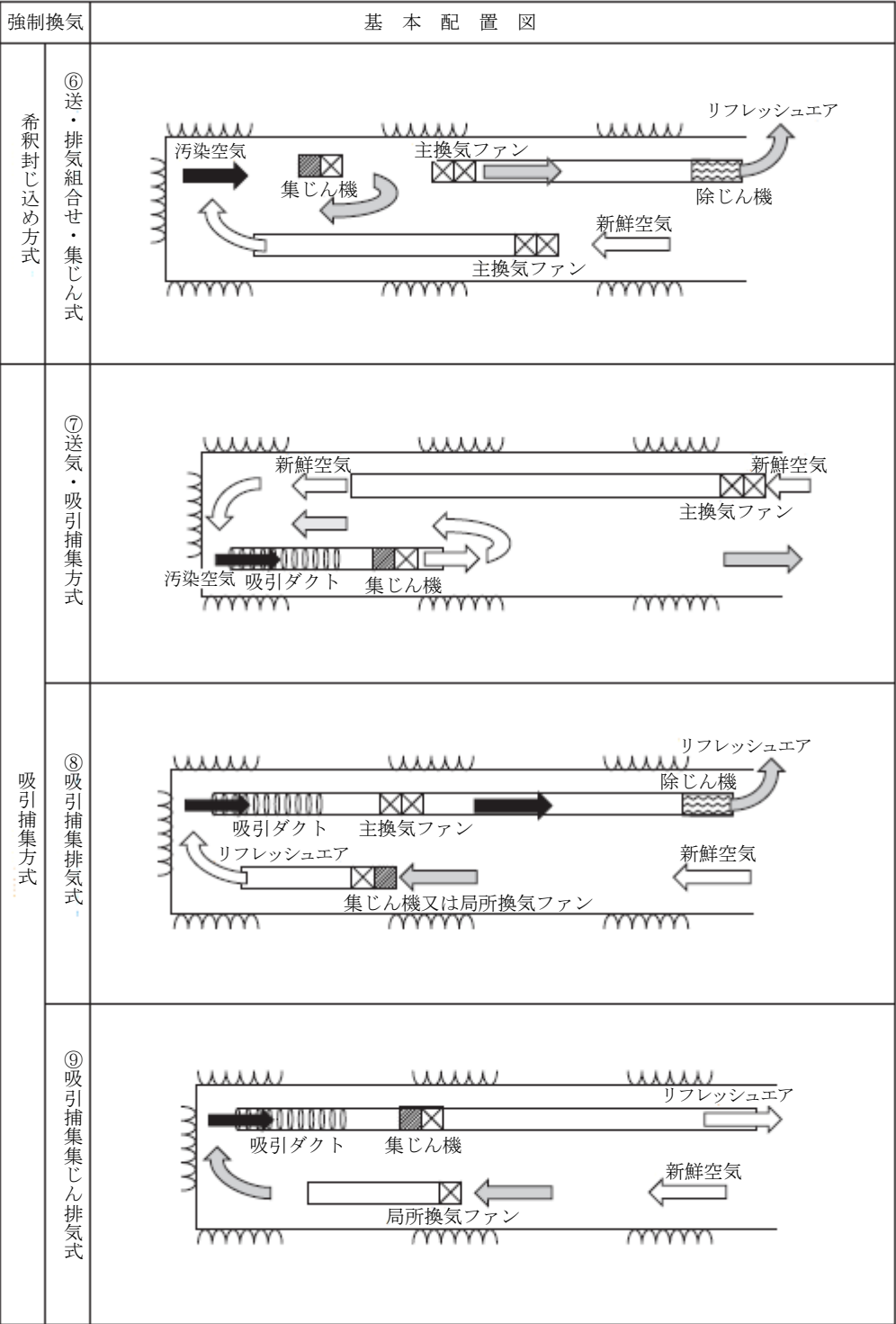


図 2.4.25 軸換気ファン用消音器の取付け前後の騒音周波数特性例

表 2.2.1 各種換気方式の概要





- Qa : 所要換気量 (m³/min)
- Qp : トンネル内作業員に対する換気量
- Q1 : 地山から発生する有害ガスに対する換気量
- Q2a : 発破の後ガスに対する換気量
- Q2b : 発破の粉じんに対する換気量
- Q3 : 機械・車両の排出ガスに対する換気量
- Q4 : 吹付作業の粉じんに対する換気量
- Q5 : 発熱源に対する換気量
- Q6 : 坑内風速 (36 頁、60 頁参照) から求めた換気量

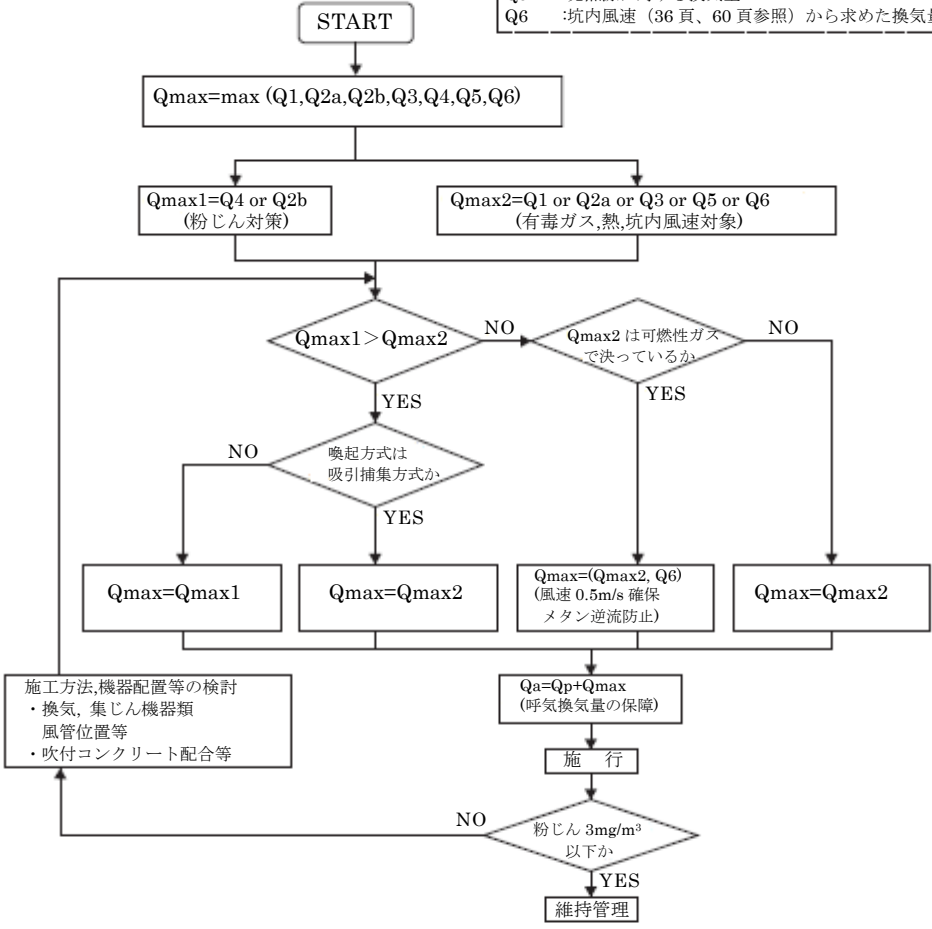


表 2.3.7 所要換気量の設定フロー